

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600487		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム日吉 A棟		
所在地	北海道苫小牧市日吉町3丁目1-9		
自己評価作成日	令和3年12月3日	評価結果市町村受理日	令和4年1月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0173600487-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方それぞれ得意な分野での役割を持てるよう工夫し、個々の習慣ややりたいことを継続できるように取り組みを行いながら毎日を活性させ暮らしていけるよう支援をしています。また、昔ながらの季節ごとの催し物や地域の方との交流、外出行事等を行い季節の移り変わりやホーム外の雰囲気感を五感で感じ取れるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホーム日吉」は、JR系井駅から徒歩で8分ほどの住宅地に立地している平屋建て2ユニットのグループホームである。明るく開放感がある居間には、利用者が腰かけたり横になって寛ぐことができる畳敷きの小上がりもある。壁にはレトロ写真館として昔懐かしい写真を掲示したり、利用者と一緒に制作したクリスマスツリーなどユニットごとに工夫した装飾が施されている。感染症流行の影響で外出ができないため、新たに昔遊びや童謡のサークル活動を始めるなど利用者が室内でも楽しく過ごせるように工夫している。理念を基に毎月目標を作成することで、職員はしっかり理念を理解し、全職員で共有しながら実践につなげている。家族へのサービスとして、感染症の影響で面会機会が少なくても安心できるように、毎月「ひよし」便りを発行して担当職員からのメッセージと計画作成担当者の手紙を添えて送っている。ケアマネジメントの面では、家族の意向を介護計画に反映できるように、本人の状況を細かく伝えながらケアに対する具体的な意向を聞き取るように努めている。銅板細工や折り紙、調理など利用者の得意なことや趣味を可能な限り継続できるように個々に応じた細やかな支援を行っている。内部研修後は全職員が研修報告書を提出して理解を深めるなど、職員の資質向上にも力を注いでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がいつでも確認できるよう事務所に掲示している。また、ケア理念を念頭に置き、現状に必要と思う北表を毎月設定し職員で取り組んでいる。	ケア理念の中に「地域の皆様と支え合い、認め合える生活を提供します」という地域との関わりを意識した文言が含まれている。ケア理念を基に、毎月目標を作成することで、職員はしっかり理念を理解し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスのため活動に制限があり例年通りに行くことはできていないが、散歩で出会う人とのふれあいや町内活動に利用者が参加できるよう努めている。	感染症流行前は地域のサークル活動に参加したり、小学生との交流会や学習発表会の見学を行っていたが、今年度は散歩で挨拶を交わす程度になっている。感染症収束後は、小学校や地域との交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事や避難訓練・運営推進会議等を活用し認知症に関する理解と協力をお願いしている。またHPで日々の暮らしを伝える等工夫している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年では2ヶ月に一度関係各所に集まっていた働き意見交換を行っているが、コロナウイルスのため入館制限ありホームからの報告にとどまっている。	会議開催時はテーマを設けて実施していたが、感染症流行のため書面会議を行い、議事録で事業所の状況を報告している。会議再開後は、参加家族が固定化しているため、テーマに沿って参加できない家族の意見や質問を収集して会議に活かしたいと考えている。	書面会議の場合も家族や地域に役立つ資料を添付するなど、事業所報告以外の情報提供の工夫も期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での定期的な報告、必要時には連絡・相談を行う体制をとっている。	管理者は、介護保険の更新手続きや事故報告書の提出などで市役所を訪問している。市役所より、国からの情報をメールで受け取ることもある。普段から連携して、困ったことがあればいつでも相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職者に対する虐待・身体拘束研修の実施をはじめ、定期的に不適切ケアの会議を行い職員全員に周知している。	禁止の対象となる具体的な行為を記載したマニュアルを整備し、3か月ごとに不適切ケア委員会を開催している。不適切ケア委員会の事例を基に年2回勉強会を実施し、全職員が研修報告書を提出して理解を深めている。玄関の鍵は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	年2回の虐待全体研修の実施。職員間でもカンファレンスや会議等でケアの質を検討している。		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時にはご家族等に後見人制度の活用の説明等を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度文書にて説明を行い同意を得ている。また、疑問点等あれば連絡先を明記し必要に応じて対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン説明時には都度要望等の意見を伺っており、各ユニットごとに意見ノートや意見箱を設置し伝えやすい環境を作っている。	感染症の収束状況を見ながら、予約制で短時間の面会を再開している。面会時や電話で家族の要望などを聞き取っている。毎月お便りを発行し、担当職員のメッセージと計画作成担当者からの手紙を送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスでの意見交換や定期面談等で機会を設けている。	会議や申し送りなどで職員の意見や提案を聞き取り、休憩時間の取り方や業務の分担、流れなどについて職員と話し合いながら変更したり改善している。管理者は、各職員と年3～4回個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給や年休見直し、資格支援制度の結局的な活用等で目標を設定し働ける環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため未実施ではあるが、例年は社内研修も年に数回実施しており社外研修にも希望者を積極的に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上記同様現在はコロナ禍のため見合わせているが、同グループとの交流会や研修等機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に可能な限り困りごとややりたいこと等の聞き取りを行っており、他事業者からの情報等活用しアセスメントを行いながら安心できる暮らしの継続に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階からご家族の思いを傾聴し数回に渡り確認を行い話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望等をふまえながら柔軟に対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを継続できる環境を常に心がけており、心身共に活性できる支援を行っている。また、昔の遊び等職員が知らないことを教わることもある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	かかりつけ医の受診等できる範囲でのご家族の協力をいただいている。また、ホーム側との連携がとれるよう情報交換を行えるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室等行きつけの場所がある場合は入居後も継続できる支援に努めている。	友人や知人と交流している利用者は少ないが、地域行事で知人に会うこともある。感染症流行前は向かい側の教会の方々と交流したり、パンや食料品などの訪問販売員と顔馴染みになっていた。家族と自宅や墓参りに出かけることもあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に暮らす仲間として互いに認め合い時には助け合えるよう過剰な介入は避け職員が補助的な役割に徹するよう努め協力し合える場面づくりや談笑の場の提供を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に立ち寄れる雰囲気づくりを心がけている。退去後も何度か顔を見せてくれるご家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話や様子、表情等から知り得たことや関わりの中で気づいたことを職員で共有している。	普段の様子や会話、表情や仕草から思いや意向を把握している。センター方式(B-3)シートを3か月ごとに更新して情報を蓄積している。今後は、趣味や嗜好などを更に具体的に記録したいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートの活用やご本人との会話の中で聞き出す等行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なアセスメントシートの見直しを行いながら日々状態変化の観察を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族には都度要望等を聞き取りし、スタッフ個々の意見集約を毎月行いカンファレンス等で話し合いながら介護計画に反映させている。	家族の意見や意向を具体的に聞き取れるように本人の状況を細かく伝えている。家族の意向を基に、計画作成担当者を中心に全職員で評価を行い、3ヶ月ごとに介護計画を作成している。記録はタブレット端末で行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や個別の支援ノートを使用しながら情報共有に努め統一した実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向やご家族の要望・状況に合わせてできるだけ限り柔軟な対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	成年後見制度、訪問理美容、他ボランティアや町内会活動等活用し支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望される場合には継続し通院できるよう情報提供や状況に応じて受診同行を行っている。	半数ほどの利用者が協力医療機関の往診を受けている。かかりつけ医を受診する時は、「受診状況報告書」で主治医に必要な情報を伝えている。往診と通院記録は個別に記録している。	

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在コロナウイルスまん延のため中止しているが、医療連携の病院が月2回の訪問看護を行っており、相互に報告・相談を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはご家族と一緒にIC等受けホームの状況をHPに伝えている。入院中にも経過の確認を行いながら円滑に早期退院にむけ話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の指針を作成し相談時及び入居時に説明を行っている。また、協力医とも状況に応じ都度意見交換を行っている。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って、食事が摂れなくなったり常時医療行為が必要になった場合は対応が難しいことを伝えている。体調変化に応じて主治医、家族、事業所で方針を話し合い移行施設を紹介することもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所に急変時の対応についての手順を貼りだし確実な対応ができるよう努めている。更に起こりうる可能性のある事柄について指示等を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各職員・入居者参加型の訓練を定期的に行っており、消防や地域と連携できる体制をとっている。	今年度は夜間の火災を想定した自主訓練を行い、年度内に日中想定火災訓練も予定している。備蓄品を整備し、職員の救命講習も計画的に進めている。災害種別ごとのマニュアル整備が不十分で、地震時の個別対応を確認する機会も少ない。	各種災害マニュアルを整備すると共に、地震時のケア別の個別対応について話し合い、議事録をマニュアルに綴り定期的に確認するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケアの重要性を理解し定期的な委員会の開催を行いながらカンファレンス時にも話し合う等職員全体に周知できるよう努めている	不適切ケア防止委員会の中で言葉かけに関する議題を取り上げている。申し送りはパソコンや書面を利用し、個人名を出さないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	都度ご本人の考えを確認するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な場合はできる限り本人に確認をとり自身で判断していただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわり等を重視した支援を行い、日常着の選択や理美容の際はご本人の希望を伺い伝える等の支援を行っている。		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調味料の選択や食事作りへの参加を促す等実施している。	食材業者作成の献立を使用している。調理法を変更したり、日々の会話の中で出た料理に変更することもある。誕生日は個別にお祝いし、出前の寿司など本人の好みの物を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者が食べやすい形状や量で提供し水分も本人の嗜好に合わせた物を提供する等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの実施を行っている。また、歯科往診や指導等活用できる環境を作っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者個々の排泄パターンをアセスメントし、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行いトイレでの排泄につなげている。	自立している利用者も多く、昼夜を問わずトイレでの排泄ができています。夜間のみパッドを使用する利用者もいる。個別に排泄状況を記録し、時間を見ながら本人に合った声かけを行い失敗を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の調整や運動量を増やす等取り入れており、必要時には医療関係とも連携をとっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間はある程度決めているが、本人が望まない時は時間をおいて声掛けを行ったり、日付をずらす等の支援を行っている。	日曜日は入浴予備日として、午前中を中心に1人当たり週2回の入浴を支援している。入浴剤を利用したり湯加減に配慮している。湯上がりのノンアルコールビールなど、好みの飲み物も利用者の入浴の楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご本人の生活パターンに合わせており、照明も希望に合わせて明るさを調整する等している。また、日中も畳コーナーやソファ等ホールでもくつろげる場所を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師と連携し副作用も含め理解に努め細かく観察等を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理等ご本人が得意とするものを役割とし生活できるよう工夫している。また、嗜好品等の聞き取りや要望あればご家族と相談を行いながら提供している。		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(A棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナのため外出制限あり実施できていないが、例年は入居者へアンケートをとりったり相談しながら外出を行っている。	感染症対策をしながら事業所周辺や公園などへ散歩に出かけている。感染症流行のため外出する機会が減ったが、敷地内の畑作業や外気浴を行い、外気に触れる機会を設けている。感染症の収束状況を見ながら花見や紅葉見学なども再開したいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかい程度の現金を所持されている入居者がいる。使用の希望があれば機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話ができる環境にあり希望があれば支援を行える体制をとっている。また、ご家族からの電話をご本人につないだり手紙の投函も支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に日当たりよく光が差し込み温かみのある空間になっており、カーテン等で都度調整を行っている。居間には季節ごとに作成した壁飾りを配置する等工夫し季節を感じ取れるようにしている。	対面式キッチンから見渡せるリビングは窓から陽が差し込み、広々とした明るい空間となっている。畳敷きの小上がりや居室へ続く廊下にはベンチがあり、利用者が好きな場所でゆったりと過ごすことができる。観葉植物や季節の手作り装飾から家庭的な温もりと四季が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はご本人が希望する場所で過ごしていただけるよう支援している。ソファで入居者同士談話することもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明の際にご本人の使い慣れた物を持ち込めるようお願いしている。また趣味のものを飾る等自分らしさが見られる居室となっている。	洗面台が備え付けられている。使い慣れたタンスなどの家具類や仏壇、馴染みの物、テレビなど好みの物を持ち込んでいる利用者もいる。観葉植物が飾られていたり、カーペット敷きにするなど、利用者それぞれの個性のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には写真や文字等でわかりやすい工夫を行っている。他お知らせやカレンダーを活用しながらご本人が考え行動できるような支援に努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600487		
法人名	TNふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム日吉 B棟		
所在地	北海道苫小牧市日吉町3丁目1-9		
自己評価作成日	令和3年12月3日	評価結果市町村受理日	令和4年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方それぞれ得意な分野での役割を持てるよう工夫し、個々の習慣ややりたいことを継続できるように取り組みを行いながら毎日を活性させ暮らしていけるよう支援をしています。また、昔ながらの季節ごとの催し物や地域の方との交流、外出行事等を行い季節の移り変わりやホーム外の雰囲気感を五感で感じ取れるよう心掛けています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyCd=0173600487-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年12月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がいつでも確認できるよう事務所に掲示している。また、ケア理念を念頭に置き、現状に必要なと思う北表を毎月設定し職員で取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスのため活動に制限があり例年通りに行うことはできていないが、散歩で出会う人とのふれあいや町内活動に利用者が参加できるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事や避難訓練・運営推進会議等を活用し認知症に関する理解と協力をお願いしている。またHPで日々の暮らしを伝える等工夫している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年では2ヶ月に一度関係各所に集まっていたが意見交換を行っているが、コロナウイルスのため入館制限ありホームからの報告にとどまっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での定期的な報告、必要時には連絡・相談を行う体制をとっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職員に対する虐待・身体拘束研修の実施をはじめ、定期的に不適切ケアの会議を行い職員全員に周知している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の虐待全体研修の実施。職員間でもカンファレンスや会議等でケアの質を検討している。		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度においては現入居者の数名が活用されており身近にその必要性を感じる機会が持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度文書にて説明を行い同意を得ている。また、疑問点等あれば連絡先を明記し必要に応じて対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン説明時には都度要望等の意見を伺っており、各ユニットごとに意見ノートや意見箱を設置し伝えやすい環境を作っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスでの意見交換や定期面談等で機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給や年休見直し、資格支援制度の結局的な活用等で目標を設定し働ける環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため未実施ではあるが、例年は社内研修も年に数回実施しており社外研修にも希望者を積極的に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上記同様現在はコロナ禍のため見合わせているが、同グループとの交流会や研修等機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に可能な限り困りごとややりたいこと等の聞き取りを行っており、他事業者からの情報等活用しアセスメントを行いながら安心できる暮らしの継続に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階からご家族の思いを傾聴し数回に渡り確認を行い話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望等をふまえながら柔軟に対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることを継続できる環境を常に心がけており、心身共に活性できる支援を行っている。また、昔の遊び等職員が知らないことを教わったり一緒に何かを行うことで働く仲間になっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	かかりつけ医の受診等できる範囲でのご家族の協力をいただいている。また、ホーム側との連携がとれるよう情報交換を行えるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室等行きつけの場所がある場合は入居後も継続できる支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に暮らす仲間として互いに認め合い時には助け合えるよう過剰な介入は避け職員が補助的な役割に徹するよう努め協力し合える場面づくりや談笑の場の提供を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に立ち寄れる雰囲気づくりを心がけている。退去後も何度か顔を見せてくれるご家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族からの聞き取りやご本人の言動、フェイスシート等を活用しケアプランに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを参考にしご本人・ご家族からの聞き取り、生活する中での言動も含め把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況に目を配り、アセスメントシート等で把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族には都度要望等を聞き取りし、スタッフ個々の意見集約を毎月行いカンファレンス等で話し合いながら介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や個別の支援ノートを使用しながら情報共有に努め統一した実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向やご家族の要望・状況に合わせながらできる限り柔軟な対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	成年後見制度、訪問理美容、他ボランティアや町内会活動等活用し支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望される場合には継続し通院できるよう情報提供や状況に応じて受診同行を行っている。		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在コロナウイルスまん延のため中止しているが、医療連携の病院が月2回の訪問看護を行っており、相互に報告・相談を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはご家族と一緒にIC等受けホームの状況をHPに伝えている。入院中にも経過の確認を行いながら円滑に早期退院にむけ話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の指針を作成し相談時及び入居時に説明を行っている。また、協力医とも状況に応じ都度意見交換を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所に急変時の対応についての手順を貼りだし確実な対応ができるよう努めている。更に起こりうる可能性のある事柄について指示等を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各職員・入居者参加型の訓練を定期的に行っており、消防や地域と連携できる体制をとっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケアの重要性を理解し定期的な委員会の開催を行いながらカンファレンス時にも話し合う等職員全体に周知できるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で一方的に決めつけることはせず、本人の生活スタイルや思いをくみ取りながら本人自身が決定できる支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の今までの暮らしぶりや性格、環境等も考慮し各入居者のペースを保っていただける支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のこだわり等を重視した支援を行い、日常着の選択や理美容の際はご本人の希望を伺い伝える等の支援を行っている。		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の能力や得意なことを活かせるよう食事作りや盛り付け、配膳、後片付けを入居者・職員一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人が危険なく食べやすい形態や量を考え個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの実施を行っている。また、歯科往診や指導等活用できる環境を作っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者個々の排泄パターンをアセスメントし、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行いトイレでの排泄につなげている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、腹部マッサージ、水分摂取、乳製品を取り入れる等行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間はある程度決めているが、ご本人の希望があれば変更している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご本人の生活パターンに合わせており、照明も希望に合わせて明るさを調整する等している。また、日中も畳コーナーやソファ等ホールでもくつろげる場所を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し現在の服薬の状況が一目でわかる工夫を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活を送る中でそれぞれが役割を持てるよう介護計画を作成している。また、季節行事を通して昔を懐かしんでもらったり四季を感じていただく工夫を行っている。		

ふれあいの里グループホーム日吉

自己評価	外部評価	項目	自己評価(B棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナのため外出制限あり実施できていないが、例年は入居者へアンケートをとりったり相談しながら外出を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族の同意を得たうえで、おこづかい程度の現金は所持できるようになっており、希望があれば買い物の支援も行える体制をとっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればいつでもホームの電話を使用しかけられる状態となっており、相手からの電話をつなぐこともある。更に個人で携帯電話を利用している入居者もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に日当たりよく光が差し込み温かみのある空間になっており、カーテン等で都度調整を行っている。居間には季節ごとに作成した壁飾りを配置する等工夫し季節を感じ取れるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを向かい合わせに設置し互いが関わりあえるようにしている。更に少し離れた場所にもソファやベンチを設置しており、他者の気配は感じつつも静かに過ごせる場所の工夫に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明の際にご本人の使い慣れた物を持ち込めるようお願いしている。また趣味のものを飾る等自分らしさが見られる居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干し等入居者が干しやすい高さに調節できるものを使用したり、台所には自由に出入りができ、冷蔵庫から氷をとり水を飲む等行う入居者もいる。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里グループホーム日吉

作成日：令和 4年 1月 11日

市町村受理日：令和 4年 1月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害マニュアルにおいて災害種別及び各入居者別の状態に合わせた具体的な対応策が不完全。	災害が起こった際にできる限り迅速に避難ができるようマニュアルをより具体的に作成し職員に周知する。	カンファレンス等で全職員で意見交換しながら入居者別の対応を具体的に可視化できるようにする。	6ヶ月
2	4	現在感染症流行のため運営推進会議が書面会議となっているが、事業所の状況報告にとどまっており、他の情報提供や意見交換等も必要。	状況により書面会議が継続しても有意義な内容となるよう工夫していく。	御家族等から意見収集等行い、今知りたいことや役立つこと等の資料を添付していく。 更に会議に直接参加できないご家族の意見も反映できるように定期的に意見交換する等の工夫を行う。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。